様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成　24　年　6　月　11　日現在

機関番号：10104
研究種目：基盤研究（C）
研究期間：2009～2011
課題番号：21520229
研究課題名（和文）　１８世紀イギリスにおける『乞食オペラ』プロジェクトの歴史的意義

研究課題名（英文）　The Historicity of *The Beggar's Opera* in the Eighteenth-Century England

研究代表者
吉田　直希（YOSHIDA NAOKI）
小樽商科大学・言語センター・教授
研究者番号：90261396

研究成果の概要（和文）：
ジョン・ゲイの『乞食オペラ』は 1728 年の初演以来、18 世紀を通してつねに人気を博した劇作である。この劇が首相ウォルポールの政治手法を揶揄するものであったことは有名であるが、勿論、時事諷刺の域に収まる作品ではない。『乞食オペラ』は 19 世紀前半に至るまで社会のあらゆる面でイギリス国民に多大な影響を与え続けており、長い 18 世紀を代表する文学作品である。本研究では、この作品をベネディクト・アンダーソンのいう「想像の共同体」という視点から精読しつつ、多様なテクスト群と比較対照することにより、19 世紀のイギリス国民誕生に果たした『乞食オペラ』現象の歴史性を検討した。

研究成果の概要（英文）：
John Gay's *The Beggar's Opera* (1728) is one of the most popular ballad operas in the eighteenth century. This work satirizes the notable Whig statesman Robert Walpole and has far-reaching implications for a country's culture in the long eighteenth century. In this research project, I have reread the work from the viewpoint of Benedict Anderson's "imagined community." Through the comparison with many contemporary discourse, I have examined the historicity of this work in forging British nation in the next century.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,300,000	390,000	1,690,000
2010 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2011 年度	800,000	240,000	1,040,000
年度			
年度			
総　計	3,200,000	960,000	4,160,000

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ語系文学・英米文学
キーワード：　オペラ　、犯罪、国民国家、小説、公共圏、エロティカ

１．研究開始当初の背景

劇作家ジョン・ゲイあるいは『乞食オペラ』に関する個別研究はこれまでにも数多く書かれているが、長い 18 世紀の中でこの作品がイギリス国民形成に果たした役割を論じ

たものは皆無である。1680 年代のコーヒーハウス文化からフランス革命後の国民意識の高揚までを視野に入れて『乞食オペラ』を一種の社会運動として捉えることに本研究の最大の特徴がある。したがって、研究対象は小説や絵画等の文学作品にとどまらず、哲学、科学、医学、経済、宗教等の膨大な歴史資料を含むことになる。本研究により、多様な起源を有するナショナリズムの歴史的重層性を明らかにすることが可能となった。

平成 17-19 年度の研究課題「18 世紀イギリスにおけるポルノグラフィーの誕生――ジェンダー／セクシュアリティの表象に関する歴史的研究」をさらに発展させ、より大きな視点からイギリス国民誕生の歴史を精査する必要性があると考えるに至った。また、平成 18、19、20 年にアメリカ 18 世紀学会（The American Society for Eighteenth-Century Studies）で行った研究発表と質疑応答を通して、歴史の原動力としての『乞食オペラ』の重要性を再認識し、そこで得られた学際的交流と情報交換をもとに、本研究を始めることとした。

これまで、18 世紀エロティカに焦点を当て、セックスのみに限定されないポルノグラフィの多面性を明らかにすることを目的として研究を続けてきた。（1）ポスト・コロニアル批評の視点に立って、ジョンソンの英語辞典を検討し、グローバル／ローカルの対立に性の表象を読み込む可能性を提示した（ナスボームの『熱帯』を批判的に検討した平成 18 年のアメリカ 18 世紀学会での発表）。（2）ホガースの版画作品を出発点としてエロティック・アートの果たした文化的役割を考察した（絵画『乞食オペラ』のジェンダー表象を論じた平成 19 年の研究論文）。（3）ポスト・ジェンダー／セクシュアリティ論のための理論的枠組みを提示した（グローバルな文化研究の行方について議論した平成 19 年のアメリカ 18 世紀学会での発表と『英語青年』での論考）。本研究ではこれらの成果を出発点とし、『乞食オペラ』の複雑な歴史性を解明した。ハーバーマスの公共性概念とアンダーソンの共同体幻想論を批判的に検討しつつ、ポスト・コロニアルな視点からイギリス国民誕生の歴史を考察した。

２．研究の目的

初年度は（1）バラード・オペラの国民性を中心に（俳優と娼婦の呼名でもある）「乞食」の社会史的意味、1720 年代のイタリア・オペラ流行をめぐる愛国心の問題、文学の庇護制度崩壊の解明を主たる目的とした。さらに、（2）娯楽としての犯罪表象に関して、死刑の公開制度に対するさまざまな反応を分析した。法の前で特権をもつ貴族階級への憧れと批判に見られるイギリス国民の二面性を明らかにすることが目的であった。次年度は、まず 18 世紀における賭博の蔓延についての考察からはじめた。コットンの『賭博大全』や『乞食オペラ』をモチーフとした 18 世紀の各種カード遊びを取り上げ、「国民病」としての賭博の歴史的意義を明らかにすることを目的とした。また、18 世紀初頭にはすでに嘲笑の的となっていた決闘ではあるが、ベンサムの決闘論をみればわかるように、世紀を通してその存在意義について議論が続けられていた点に注目し、決闘のスノビズムを明らかにした。(3) 表現の自由と礼節推進運動については、コーヒーハウス公共圏でのエロティカに関する議論を取り上げた。最終年度は、さらにジョンソンの英語辞典を中心に、国民語としての「英語」創造の試みをポルノグラフィ誕生の歴史と重ね合わせて考察した。ジョンソンが意図した言語＝国民共同体が、実はホモソーシャルな関係をグローバルに展開し、後の帝国主義につながる可能性を検討した。現在、3 年間の研究成果を総括し、「18 世紀イギリスにおける『乞食オペラ』プロジェクトの歴史的意義」について論考をまとめている。

３．研究の方法

「想像の共同体」形成に小説の読者が重要な役割を担ったことは疑いないが、集団的「想像力」の高まりは小説以前の娯楽からすでに始まっている。多岐にわたる娯楽作品を比較検討の対象とするため、年度ごとに目的に合わせて、精読する作品のリストを作成した。また資料収集、情報交換、成果発表を各年度の学会発表に合わせて行った。

21 年度の研究では、『乞食オペラ』の娯楽性を政治的、社会的な側面から捉えなおし、フィクションとしての国民誕生の前史を描き出した。『乞食オペラ』はイギリス初のバラード・オペラである。台詞の合間に挿入された歌曲の大半は俗謡を使用しているが、パーセルやヘンデル、ペープッシュらの歌曲も借用されている。ゲイがイタリア・オペラを深く理解（ヘンデルのオペラの台本を執筆）していたことは有名であり、この作品をオペラの単なるパロディと考えることはできないだろう。『乞食オペラ』が政治問題にまで発展した経緯を反イタリア運動のパンフレット、雑誌等の資料を精査し検討する。そこから 1737 年の演劇検閲法の政治的意味を明らかにし、あわせて文学的パトロンの崩壊が「小説」の誕生に与えた影響を考察した。

またバラード・オペラと見世物としての絞首刑の比較から娯楽としての犯罪表象について研究を開始した。スウィフトの『エネベザ・エリストンの末期の演説』、フィールディングの『近時盗賊の激増せる諸原因』、ホガースの「勤勉と怠惰」を取り上げ、タイバーン刑場の死刑見物に関する議論がもつ社会史的意義を明らかにし、犯罪文学流行に見られる国民的盗賊崇拝熱の変遷を辿った。

以下の 7 点を中心とし必要に応じて、Eighteenth Century Collections Online から適宜補充した。

1. John Blow, *The Pleasant Musical Companion* (1707)
2. Caleb D' Anvers, *The Craftsman*(1727)
3. John Dennis, A*n Essay on the Opera' s After the Italian Manner* (1706)
4. Matthew Maty ed. *Miscellaneous Works of Chesterfield* (1777)
5. Jonathan Swift, *Miscellanies* (1738)
6. Henry Fielding, *An Enquiry into the Causes of the Late Increase of Robbers* (1751)
7. *The Tyburn Chronicle* (1768)

22 年度は、18 世紀における賭博の蔓延についての考察からはじめた。コットンの『賭博大全』やベンサムの決闘論を精読し、「国民病」としての賭博・決闘の歴史的意義を明らかにした。次に、アメリカ 18 世紀学会における研究発表 "Global Eighteenth Century" および研究論文 "The Hybrid Reality of *The Beggar' s Opera*" で提起したナショナリズムの問題を「表現の自由と礼節推進運動」というテーマに沿って再検討した。その際、男性中流階級を主な読者層とするエロティカを取り上げ、politeness と effeminacy、および男性のセクシュアリティに関する論争をもとに、公共圏でのジェンダーの役割も考察した。これらは、『乞食オペラ』が提起した小説読者のための超越的視点の歴史性を具体的に検証するものであり、ベンサムのパノプティコンはその終点に位置づけられる概念となる。主に以下の 5 点を分析対象とした。

1. Charles Cotton, *The Compleat Gamester* (1725)
2. Jeremy Bentham, *An Introduction to the Principles of Morals and Legislation* (1789)
3. *The Young Ladies Conduct: or, Rules for Education* (1722)
4. John Constable, *The Conversation of Gentlemen* (1739)
5. *The Art of Govering a Wife; with Rules for Batchelors* (1747)

最終年度は、ジョンソンの英語辞典を中心に、国民語としての「英語」創造の試みを『乞食オペラ』が表象するホモソーシャルな帝国主義の観点から考察した。その際、ナショナリズム誕生に決定的な意味を持つ俗語の同一性＝辞書編纂に『乞食オペラ』のバラードがいかに重要であったのかを用例によって検証した。さらに、３年間の研究成果を総括し、「18 世紀イギリスにおける『乞食オペラ』プロジェクトの歴史的意義」について新たな著作に取り組んでいる。

以上の研究により、ハーバーマスの公共性概念とアンダーソンの共同体幻想論を有機的に結合させ、ポスト・コロニアルな視点からイギリス国民誕生の歴史を詳細に辿り直すことが可能となった。

４．研究成果

21 年度は特に『乞食オペラ』を次の 2 点から精査し、18 世紀ナショナリズムの可能性と限界について研究を行った。（1）バラード・オペラの国民性（イタリア・オペラ、演劇検閲法、文学的パトロン、小説の勃興）についての理論的考察と歴史資料の収集（2）表現の自由と礼節推進運動（プライバシー、コーヒーハウス公共圏、エロティカ、英語辞典）に関する理論的検証 （1）については 9 月にスタンフォード大学において John Bender 教授と研究会を行い、同時に同大学 Green Library にて主に ECCO を用いて資料の収集を行った。また（2）については東北英文学会シンポジウム「英文学におけるジェンダー/ジャンル」を企画し、その司会を務めつつ、多方面からこれまでの研究を再検討した。さらに、アメリカ 18 世紀学会のパネル The Representations of East Asia in the Long Eighteenth Century の司会を務め、アジア表象の視点から 18 世紀イギリス公共圏の諸問題について議論を行い、次年度計画の土台を固めた。

22 年度は特に『乞食オペラ』を次の 2 点から精査し、コーヒーハウス公共圏でのエロティカについて研究を行った。（1）コットンの『賭博大全』や『乞食オペラ』をモチーフとした 18 世紀の各種カード遊びを取り上げ、「国民病」としての賭博 についての理論的考察と歴史資料の収集した。 （2）表現の自由と礼節推進運動に関する長い 18 世紀の枠組みで捉えなおし、『乞食オペラ』にみられるエロスの表象を通時的に検証した。（1）については 9 月にスタンフォード大学において John Bender 教授と研究会を行い、同時に同大学 Green Library にて主に ECCO

を用いて資料の収集を行った。また（２）については日本英文学会シンポジウム「初期近代イギリス文学とエロス」を企画し、その司会を務めつつ、多方面からこれまでの研究を再検討した。さらに、前年度に開催したアメリカ 18 世紀学会のパネル The Representations of East Asia in the Long Eighteenth Century についてその成果を整理し、次年度計画の土台を固めた。

最終年度においては、ジョンソンの英語辞典を中心に、国民語としての「英語」創造の試みを『乞食オペラ』が表象するホモソーシャルな帝国主義の観点から考察した。その際、ナショナリズム誕生に決定的な意味を持つ俗語の同一性＝辞書編纂に『乞食オペラ』のバラードがいかに重要であったのかを用例によって検証した。さらに、２年間の研究成果を総括し、「18 世紀イギリスにおける『乞食オペラ』プロジェクトの歴史的意義」についての論考執筆にとりかかった。ホモソーシャルな帝国主義の文学的表象として 18 世紀中葉のエロティカを題材に、23 年 10 月には“When Pleasure Becomes Word: Sexual Desire in *Memoirs of a Woman of Pleasure*”を発表した。また 24 年 3 月にはアメリカ 18 世紀学会で“Globalizing the Enlightenment through the Representations of Asia”を企画し、アジア表象の視点から 18 世紀的イギリス帝国主義の問題点を批判的に検討した。これまでの 3 年間にわたる研究により、ハーバーマスの公共性概念とアンダーソンの共同体幻想論を有機的に結合させ、ポスト・コロニアルな視点からイギリス国民誕生の歴史を詳細に辿り直すことに一応の道筋をつけることができたと評価できるだろう。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔学会発表〕（計 4 件）

①吉田直希「Globalizing the Enlightenment through the Representations of Asia」American Society of Eighteenth Century Studies　2012年3月24日　Hyatt San Antonio in Texas, USA

②吉田直希「英国 18 世紀エロティカと公共圏」日本英文学会　2011 年 5 月 29 日 神戸大学

③吉田直希「The Representations of East Asia in the Long Eighteenth Century」American Society of Eighteenth Century Studies　2011 年 3 月 19 日　Hotel Albuquerque in New Mexico, U.S.A.

④吉田直希「英文学におけるジェンダー/ジャンル」東北英文学会　2010 年 12 月 6 日　秋田大学

〔雑誌論文〕（計 1 件）

①吉田直希「When Pleasure Becomes Word: Sexual Desire in *Memoirs of a Woman of Pleasure* 」46 巻 pp.25-45、『試論』2011 年

６．研究組織

(1)研究代表者
吉田　直希（Yoshida Naoki）
小樽商科大学・言語センター・教授
研究者番号：90261396